

大切なもの

弘前市立第三大成小学校

對馬 璃音

対象作品／村椿菜文著『まいごのビーチサンダル』あかね書房

わたしは、夏休みの宿題で、はじめて読書感想文を書くことになりました。本屋さんへ行き、読書感想文をおすすめコーナーにあった、夏つばい題名と表紙で、本のおびの「読んだら、ぼうけんしたくなる本です」という文にひかれて、この本をえらびました。

このお話は、ビーチサンダルの、ビーとサンが、いつもはいてくれているコウくんとはなればなれになっている間に、サンがいろいろなぼうけんをするお話です。

わたしは、さいしょ、いつもいっしょだったビーとサンとコウくんがはなればなれになってしまつて、かわいそうだなあと思いました。もしもわたしが、いつもいっしょのお母さんとはなれたら、さがしに行けるかふあんだし、こわくなりません。

特に心にのこつたところは、なみにさらわれ、おきに流されていくサンのぼうけんです。海の中で、サンは、サンゴのたまごたちや、大きな魚、リングゴに出会い、みんなも悲しい

わかれをしていることを知のです。一人で生きていくみんなの思いを知らながらも、まだ、大切な人に会いたい、伝えたいことがあるというサンの思いがとても強く感じられました。トンビにさらわれたときは、どきどきしましたが、さいごはサンがビーや、コウくんに来てほつとしました。

ビーとサンとコウくんは、今までずっといっしょだったから、こんなふうに思えるんだろうなあと思います。

わたしは、三年生になつて、さい玉から弘前へ転校してきました。今までずっといっしょだった大すきな友だちとのかわかれは、さみしくて、悲しくて、なみだが止まりませんでした。でも、サンのように、また友だちに会いに行きたいなあと思いました。そして、新しい学校でのことをたくさん教えてあげたいです。

この本を読んで、自分にとって大切なものは何か、また、その大切なもののことを大切にして生きてきたのかなあと考えました。まわりの人たちのやさしさにも気づかされました。

これから、わたしのまわりにいる大切な人たちに、自分の

思いを伝えて、みんなにやさしくして生きたいです。